平成２６年　第９回教育委員会会議録

１　日　時

平成２６年７月１０日（木）

開会　１０時３０分

閉会　１１時１５分

２　場　所

教育委員会室

３　出席した委員

金田清委員長、八重澤美知子委員、横山真紀委員、橋正徹委員、木下公司教育長

４　説明のため出席した職員

青木哲雄教育次長、平畠敏彦教育次長、齊田正活教育次長、金戸清外志教育次長兼庶務課長、表純一教育次長兼教員指導力向上推進室長、竹中功教育次長兼学校指導課長、宮﨑栄治教職員課長、坂井芳子生涯学習課長、柴田政秋文化財課長、森山喜博スポーツ健康課長

５　議案件名及び採決の結果

議案第24号　教育職員免許状の更新等に関する規則の一部改正について　（原案可決）

議案第25号　石川県立図書館協議会委員の委嘱（任命）について　（原案可決）

６　報告案件

報告第１号　平成２６年度基礎学力調査の結果について

報告第２号　平成２７年度石川県公立高等学校入学者選抜方針について

７　審議の概要

・開会宣告

金田委員長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第25号は、人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１３条第６項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

・質疑要旨

議案第24号　教育職員免許状の更新等に関する規則の一部改正について

（宮﨑教職員課長説明）

資料１ページをご覧ください。

「１　提案理由」は、教育職員免許状の更新等に関する規則の中で引用している文部科学大臣表彰の名称が、事務職員等を含む被表彰者の拡大に伴い変更されたことによって関係規定の整備を行うものであります。

「３　改正内容」については、２ページの概要をご覧ください。

同規則第３条中の「文部科学大臣優秀教員表彰」を「文部科学大臣優秀教職員表彰」に改めるものであります。

施行年月日は、公布の日といたします。

続きます３ページ、４ページは規則の案、５ページは新旧対照表となっています。

【質疑】

（金田委員長）

具体的には、どの職種が追加されたのか。

（宮﨑教職員課長）

管理職を除く事務職員や学校栄養職員、実習助手などです。

（金田委員長）

この件につきまして、他にご発言はありませんでしょうか。

それでは採決を求めます。

（全委員）

異議なし。

報告第１号　平成２６年度基礎学力調査の結果について

（竹中教育次長兼学校指導課長説明）

資料９ページをご覧ください。

「１　調査の目的」につきましては、主に本県児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能や活用力の定着状況等を把握・分析し、学校における教育指導の改善を図ることであります。

「２　調査の対象等」ですが、「教科に関する調査」の実施校数、実施児童生徒数、対象教科等につきましては、表に示したとおりであります。小６及び中３の対象教科につきましては、例年同じ時期に実施される全国調査と重ならない教科を実施することとしています。

「（２）教員に対する調査」についても、例年どおり、指導状況等について抽出調査を

行いました。

資料１０ページをご覧ください。

「３　調査の日時」については記載のとおりです。

それでは調査結果について、説明いたします。

「４　調査結果の概要」の「（１）教科に関する調査結果」をご覧ください。

小学校第４学年の国語の県全体の平均正答率は６７．３％、算数は６６．７％、小学校第６年生の社会の正答率は７２．５％、理科は７０．０％、中学校第３学年の社会の正答率は５８．９％、理科は５０．４％、英語は６２．６％でした。

小４国語では、文章を読んで中心となる文をとらえるという問題が、少し小学４年生には不慣れな問い方であったことなどから、正答率が昨年度と比べ、若干下がっていますが、基礎的・基本的事項については、昨年度同様、概ね良好な結果となっています。

正答率が上がった教科について、理由として考えられるのは、小６社会では、地図帳を利用して情報を読み取る問題、中３英語では、まとまった文を読んで対応する絵を時間の順番に並べる問題など、これまで継続して出題してきた問題において改善が見られたためと考えております。

なお、中３社会については、昨年度より約１０ポイント上昇しており、これは社会的事象についての知識・理解の点で昨年度に比べ改善が見られたことが要因と考えていますが、依然、資料の読み取りや複数の資料を関連付けた説明には課題が見られると考えています。

教科ごとに課題の見られた領域・分野やその対策については、例年、報告書「分析・考察」を作成し、その中に盛り込んでいくこととしています。そのため、今後、調査結果の詳細な分析・考察を進め、改善のための具体的な指導事例を作成するなど、より一層内容を充実し、９月中を目途に各学校等へ配付することとしています。

次に「（２）質問紙調査結果」について説明します。資料１１ページをご覧ください。

小学校第４学年の回答状況ですが、「1 学習に対する関心・意欲・態度」について特徴的なものを紹介しますと、「自分の考えを発表したり、話し合ったりすること」については、「好き」「どちらかといえば好き」と肯定的な回答をした児童の割合は６８．４％で、「課題について、自分で考えた方法で調べたり確かめたりしながら勉強すること」についても７５．８％と昨年度比べわずかに減少したものの、概ね良い結果であるととらえています。

また、「2 家庭学習習慣」に関しては、普段の１日あたりの勉強時間が３０分以上の児童の割合は８８．２％、学校が休みの日の１日あたりの勉強時間が１時間以上の児童の割合は５１．４％と、昨年度と同程度か、やや上回り、家庭学習の習慣が身に付いている児童が多いというふうにとらえています。以上、小学校４年生の回答状況から抜粋して説明しました。

なお、小学校６年生と中学校３年生については、国の調査結果と併せて報告させていただきたいと思っています。

続いて教員の質問紙調査結果についてですが、教科等に関する指導については「児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている」と回答した教員の割合は、小学校で９４．６％、中学校で９０．６％となっています。

また、「児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている」と

回答した教員の割合は、小学校で９５．０％、中学校で８７．５％となっています。

いずれも昨年度とほぼ同数か、やや上回る結果であり、活用力の向上を目指す取り組みを進めている中で、概ね良い結果ではないかと考えています。

この集計結果については、冊子「結果の概要」として、間もなく学校に配付し、それぞれの採点や分析に役立ててもらうことにしています。

【質疑】

（橋正委員）

調査結果を見ると、昨年度と比べ上がっている教科が多く、先生方の頑張りがここからみえるのかと思いますが、４年の国語が大きく下がっているし、中学の理科は相変わらず低空飛行のままという印象です。学校を回っていると学力調査の点数の低い学校は、個々の先生の力量にもよるが、全体的にやはり授業が下手だという印象を受ける。

この調査は、小中学校の教員の意識の断面を表しているのではないかと思うが、教員の意識は、どのように経年変化しているのか。例えば「去年より頑張っている」といったものが、数字として見えているのか、去年も一昨年も相変わらずの結果なのでしょうか。

（竹中教育次長兼学校指導課長）

例年と同程度の結果であるが「ほとんどしていない」との回答、していないのではなくて「できていない」「できているか自信がない」という回答だが、そう回答する教員は、年々少なくなっている。ご指摘いただいたとおり、個々の先生の力量もあるが、学校全体として分析した結果を授業に活かすという取り組みが進んでいる学校と、いまいち不足しているという学校が見られまして、そういったところをこれから改善していきたいと思っている。

（八重澤委員）

昨年度の小４の国語が非常に良く、いよいよ読書の習慣、「ふみの日に読書をしよう」といった効果が表れてきたのかと思っていたが、キャンペーンを張った時期は非常に良く取り組むが、だんだん慣れてきて、ルーティンワークのようになってくると落ちるということがあるのかなという心配があるので、その確認をしていただきたい。

また、社会的事象に対する興味があるということで、社会の点数がすごく上がっている。このことは今の時代において、ものすごく結構なことなのですが、課題として言われていた資料の読み取りができなかったということ。これから益々、自分の目で見た資料を読み解く力が大事になってくる。私たちも学生に、一所懸命、いろんな資料を提示して、そこから自分の考えをきちんと述べさせるメディアリテラシーなどもやっている。社会科のみならず、課題であるところの資料の読み取りに関する授業の工夫が必要かと思いますので、力を入れてお願いします。

もう一つ、平均正答率以上の学校、その中で上位２５％に入る学校と下位２５％に入る学校では、先生の意識に何か違いはあるのでしょうか。例えば、平均より遙かに上位にある学校の先生方は、教科指導で発問の指導をしているとか、そのような意識との対応はあ

るのかと言うことも見ていくと良いと思いますので、できたら分析していただきたいと思います。

（竹中教育次長兼学校指導課長）
先生方個々人の力量を高めていかなければいけないということだが、小学校６年生の成績とうのは、６年生になるまでの各学年の成果が表れたものだと考えているので、学校全体で、組織的に児童生徒の活用力を高めて行くような取り組みができているかと言うことが、今後の課題だと思っています。

（横山委員）
質問紙調査結果を見ると、小学４年生の子供たちが、自分の考えを発表したり、自分らしい方法で調べたり、チームで確かめながら勉強するということがとても楽しいと思っている、好きだと思っている子が７割以上いると言うことは、本当にすばらしいことだと思う。子供の好奇心の芽が育っていく礎になっていると思っているのですが、先生方の教科等に関する指導の回答結果を見ると、とても良い小学生の意識の結果があるにも関わらず、中学校になると、受験のための知識をしっかり分かり易く教えるという大きな使命があり、中学生に時間的余裕や精神的余裕というものも影響しているのかも知れませんが、学び合う場をあまり設けていないと回答した先生が１割強もいることが少し残念でもったいないなと思います。
私の仕事もそうだが、どんなに良いアイディアや社会でどんなに役に立つ物があっても、きちんとプレゼンテーションが出来て、その良さを伝えて、それが社会に浸透していくような働きかけをするということが、基本的にどのようなストーリーの中にも必要なことだと思います。中学、高校に行けば行くほど、自分たちの考えをしっかりプレゼンテーションする場、量ではなく質的なものの重要性が高くなってくると思う。
勉強の時間もあって、なかなか大変だと思うが、そういう中で、学び合う時間を設けさせていく何か策というか、その辺りの先生方への指導はどうなっているのでしょうか。

（竹中教育次長兼学校指導課長）
学び合う場というのは、児童生徒同士で話し合って問題を解決していくとか、多様な考え方を出し合うとか、多面的に思考するそういう場を設けるということです。
小学校や中学校の先生方は、非常にそういうことに長けているが、高校の先生は、ちょっと苦手かと思っていますが、今年度に入りましてから、各学校でＩＣＴを活用する取り組みが始まっていまして、ＩＣＴを活用し、資料の提供をテンポ良く行い、その空いた時間でそういった思考を深めるような授業を行うと、そのようなことを今年、一所懸命に取り組んでいるところです。
上手な方は、大変上手く授業に活用している。一方で、まだまだ技術を磨かなければならない方もたくさんいると状態だと思っている。

（横山委員）
現在進行形というところですね。

（金田委員長）
私も竹中次長も高校でしたけれど、確かに高校の先生は、その辺を一番反省している。問題さえ解ければ良いだろうという考え方がありましたから。
高校の先生の授業というのは、今もまだ、旧態依然というところが多いですかね。

（竹中教育次長兼学校指導課長）
まだ教え込みが得意な先生の方が多いかと思います。

（木下教育長）
やはり若干、知識偏重の部分もあるので、今年度６月補正予算で「学びの力向上アクションプラン」というものを作りましょうというふうにさせていただきました。
これは、子供たちが高校卒業時点で目指すべき力を、それぞれの学校がその特徴に応じて設定、それを各学校のスタンダードにしていこうということを考えています。
教科の中でどういう知識の内容を確かめるかということは、学習指導要領等でそれぞれ決まっているが、表現力あるいはプレゼンの能力、対話、批判的・論理的思考をしていく能力ということに対する一つ一つの授業の中での位置づけというものが、残念ながらあまり明確にされておらず、先生それぞれに任されている。
学校全体でどの授業で力を付けていけば総合力でこうなるというものがないものですから、そういった部分を学校全体で、先生方で検討していただいて、卒業時点でどうするかということをプランニングしてもらい、そういったことを認可していこうと考えている。
今年度と来年度、各学校でやっていただくことになるわけだが、その中で教師としての力の付け方というところについても検討していく形にしたいと思っている。

（金田委員長）
大切なことですね。地方の教育委員会はこうして頑張っているわけだが、最終的に主役になる大学入試が、やはり時代に応じて変わって行かないと、今、教育長が言われたような努力が花開かないということになるというジレンマがありますよね。機会ある毎に私たちが、文科省に対して意見をしていかなければならないことだと思う。

（横山委員）
「学びの力向上アクションプラン」期待したいと思います。

（金田委員長）
知らなくて恥ずかしい話ですが、小学校で３時間以上も家で勉強する子がいるんですね。
塾の時間も入っているのですか。

（竹中教育次長兼学校指導課長）
それも含めての時間です。

（金田委員長）

３時間以上も家で勉強する子がいれば、全くしない子も同じ教室にいる中で、先生がどのように授業を組み立てるかということは、難しい、大変なことだと思います。

一人一人の児童生徒の力を見極めながら、授業を作っていただきたいと思います。

宮崎教職員課長にお願いをしたいのですが、今、竹中教育次長が言われた先生方の指導力というものが、本当に問われるようになってきますので、教職員課としても人事異動も含めて、常に横との連携を取りながら先生方個々の指導力の把握にも努めていただきたいと思います。

（橋正委員）

過去問など現実的な素材を使っての授業で、即、結果が出やすい教科と、なかなか結果が出にくい教科があります。後者の最たるものは、国語かと思います。ですから学校では、一般的に朝読書などを行っているかと思いますが、音声言語も含めて豊かな言語活動、それから、文章に触れる機会、そういった活動を、もう一度、学校活動全体の中で、もっと多彩に展開できる道はないのか、そのような取り組みをやっていくことが、国語力を上げ、問題の読解力にもつながり、理科や数学などにも反映していくのではないかと思います。

先程、八重澤委員も言われていましたが、そのようなことにも配慮していただきたいと思います。

（金田委員長）

今回の問題の問い方は、子供にとって難しかったのか。その辺りの検証はしていますか。

（竹中教育次長兼学校指導課長）

昨年度と比べ、平均正当率が下がった小４の国語ですが、少し長い文章を提示しまして、この部分を説明している文章を一つ抜き出して、冒頭の４文字を答えなさいと言う設問をしたものですから、ちょっと戸惑った児童がいたのかと思います。

今、ご指摘いただいた言語活動等については、国語だけでなく、全ての教科でそのような力を付けていく場を設けていかなければならないと感じています。

報告第２号　平成２７年度石川県公立高等学校入学者選抜方法について

（竹中教育次長兼学校指導課長説明）

資料１２ページをご覧ください。

初めに「１　推薦入学」について、説明します。

まず、「(1) 推薦入学実施校」ですが、「ア」に示しました全日制の普通科で推薦を実施するのは、前年度同様、ご覧の８校であります。

「イ」に示しました全日制の普通科におけるコース、専門学科及び総合学科で推薦を実施するのは、ご覧の２０校であります。

また、「ウ」に示しました定時制における実施校は、ご覧の１校であります。

次に資料１３ページ「(2) 推薦枠及び検査項目」をご覧ください。

先の教育委員会会議でご審議いただき、決定された入学者選抜方針では、コースを除く普通科の推薦枠は、２０％以内、普通科におけるコース、専門学科及び総合学科は、２５％以内となっています。

その選抜方針を受け、各学校において、一般入試枠とのバランスを考慮して、弾力的に推薦枠を設定したものであります。検査科目については、前年度と同様となっています。

次に、資料１４ページをご覧ください。

「(3) 推薦要件」でありますが、「ア」の普通科の推薦入学実施校については、県が定める推薦要件として、「ａ　推薦にふさわしい学力を有すること。」、「ｂ　当該高等学校が定める推薦要件を満たすこと。」が入学者選抜方針で規定されており、それを受けて、推薦入学を実施する学校からの推薦要件を資料１４ページから１５ページにわたって示していますので、ご覧いただきたいと思います。

次に資料１５ページをご覧ください。

「イ」の普通科におけるコース、専門学科及び総合学科における推薦入学実施校については、県が定める要件を「ａ　当該学科（コース）を志望する動機、理由が明確かつ適切であること。」、「ｂ　当該学科（コース）に対する適性、興味及び関心を有すること。」、「ｃ　調査書に優れた点や長所の記録を有すること又は当該高等学校が定める推薦要件を満たすこと。」と示しています。このうち、「ｃ」の「当該高等学校が定める推薦要件」については、現在、定めてる高校はありません。

最後に資料１６ページをご覧ください。

「２　一般入学について」です。「(1) 一般入学の学力検査以外の検査科目」について、全日制課程の学校、定時制課程の学校とも、それぞれ一覧表に記載されているとおりとなっています。

全日制課程については、２７校で面接及び適性検査のうち、いずれか一つ又は両方を実施することとなっています。

なお、面接及び適性検査のいずれも実施しない学校は、小松高校、金沢泉丘高校、七尾高校など１３校となっています。

次に「(2) 傾斜配点実施校」ですが、前年度同様ありません。

以上で報告を終わります。

【質疑】

（八重澤委員）

推薦要件の「当該高等学校が定める推薦要件を満たすこと」について、資料１４ページからの表を見ていると、ほとんどの学校で、生徒会活動等においてリーダーとして活躍できる者とされているが、実際に推薦を受けた者は、活躍しているのでしょうか。

（竹中教育次長兼学校指導課長）

様々な面を評価されて推薦で入学した生徒の追跡調査が、各学校で行われていますが、概ね成績の方も良好で活躍していると各学校では捉えているとのことです。

そういった調査を行いながら、各学校では、推薦入学と一般入学のバランスというものを決めているということです。

（八重澤委員）
推薦は、何月ぐらいに行われるのか。
また、決まってからの指導としては、何があるのでしょうか。つまり、まだ他の子が一所懸命に勉強している中で、先に入学が決まってから実際に入学するまで、その子たちはどのように過ごすのでしょうか。

（竹中教育次長兼学校指導課長）
推薦入学の試験は、ほぼ２月の中頃で、それから一週間ほど経って、合格発表ということになります。
学校よっては、こなせる範囲での宿題を出して、春に備えるというようなことをやっているところもあると聞いています。

（横山委員）
推薦入試の合格率、応募者に対しての合格者の割合は、どのくらいですか。

（竹中教育次長兼学校指導課長）
手元に資料がなく数字は分からないが、学校が定めた推薦枠以上に応募者が集まった学校では、当然、不合格となる生徒もいるが、応募者数が推薦枠に至らなかった学校については、概ね合格していると聞いています。

（横山委員）
勿論、ある程度中学校の方で、推薦要件を満たしている子かどうか見て推薦するわけで、なので当然、応募者数が推薦枠に至らなかった学校については、概ね合格なんですね。

（竹中教育次長兼学校指導課長）
中学校では各学校で推薦委員会のような会議を開きまして、各学校に相応しい生徒を推薦していることから、ある一定水準の生徒が集まるということになっています。

（金田委員長）
以降の審議については、非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第２５号　石川県立図書館協議会委員の委嘱（任命）について（非公開）
坂井生涯学習課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案どおり可決された。

・閉会宣言

金田委員長が、閉会を告げる。